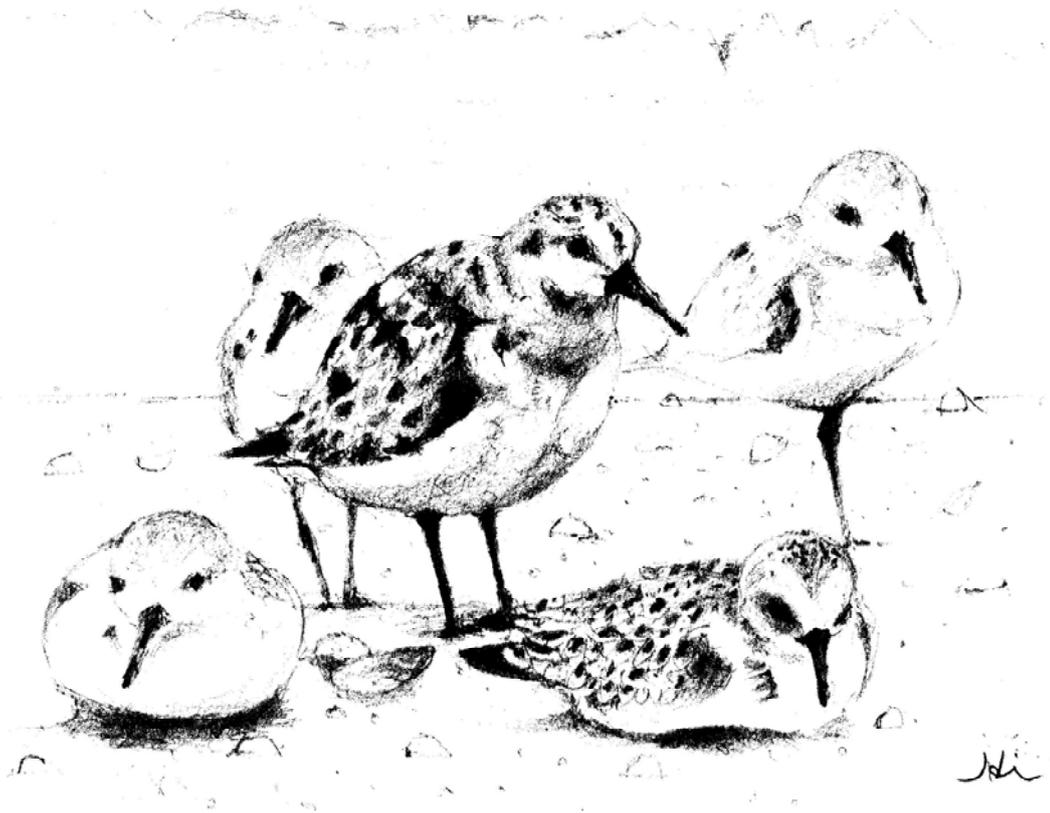


シロチドリ



第73号

2012年 9月 日本野鳥の会三重

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

セイタカシギ繁殖記録 —松坂市曾原新田大池—

今井光昌 (津市)

曾原新田大池は五主海岸から三渡川河口に至る後背地の湿地の一つでカモやサギ、シギ・チドリが飛来する。セイタカシギも年中見られる。三重県におけるセイタカシギの繁殖成功は 2008 年、2009 年に四日市市で記録されているが、鈴鹿市以南で繁殖成功の記録はなく今回の曾原大池が初となる。2012 年 6 月 19 日に台風が通過、その数日後に 4 つがい在地元の池に飛来し、うち 3 つがいが巣作りを始める。しかし、1 巣は産卵途中の放棄あるいは捕食された。抱卵に入ったのは 2 巣であった。巣の間隔は 50~70m ほどである。2 巣とも 7 月 2 日に抱卵開始、その数日後に 1 巣は失敗に終わる。4 個の卵は何者かに捕食されたようだ。結局孵化したのは 1 巣の 4 卵であった。7 月 25 日 PM 2 時に 1 羽の孵化が確認され 2 時間後の PM 4 時に 2 羽目が孵化し、26 日 AM 5 時に 3 羽目の雛が見られ、27 日 AM 5 時に 4 羽目の雛が確認されている。3 日間かけて 4 羽の雛が誕生した。4 羽目の雛が見られた AM 5 時に卵の殻を数メートル先の水面に捨てた親鳥が目撃されているから孵化して間もなかったのだろう。

巣作りを始めたころ当池にはカルガモが

20 羽ほどいたが、執拗な親鳥の威嚇によってカルガモは他に移動する。産卵から育雛の間はサギ類やカラスにも威嚇攻撃を続けている。7 月から 8 月中旬はシギ・チドリの渡りの時期になり当池にも飛来が見られるが、アオアシシギやキアシシギ、ソリハシシギ、小さなコチドリやイソシギさえ親鳥が追い払ってしまう。

===== 目次 =====	
セイタカシギ繁殖記録-----	1
今年のコアシサシ-----	3
魅力あふれる戸隠の探鳥-----	4
ヒナを拾わないで-----	7
事務局だより-----	8
中部ブロック会議スタッフ募集-----	10
野鳥記録-----	11
探鳥会報告-----	12
編集後記-----	15

表紙の言葉

「ミユビシギ」

津の海岸には毎年 200 から 300 羽のミユビシギが飛来する。中河原海岸には赤茶色の夏羽がまだ残るミユビシギが 20 羽ほど休んでいた。ここで、冬まで滞在するのか？はるかオーストラリアまで飛ぶのか？ミユビシギの海岸をいつまでも残したいものである。

石原 宏 (津市)



シギ・チドリの貴重な湿地でもある当池にシギ・チドリが飛来できない状況が続いている。雛の世話は1ヶ月ほど(28日から32日)続くので、8月下旬ごろまで曽原大池はこのセイタカシギの縄張り状態が続くのだろう。4個目の卵が孵化したのは7月27日、早朝4羽が確認されている。当日の夕刻には親鳥の誘導で4羽の雛が泳ぐ姿を確認できた。生まれたその日に雛は泳げるのだ。感動! 葦原から葦原を泳いで行き来する4羽の雛が一日に1~2回見られるが、夕刻になると巣から10mほど離れた葦原の先端部に泳ぎ移動する。翌早朝観察では同場所で雛が見られることからねぐらを一定の場所に決めているようだ。

雛は一日一日とたくましく成長している。

当原稿を書いているのは4羽目の雛が誕生した孵化日から20日目である。あと10日ほどで飛べるようになると思われる。セイタカは昨年も一昨年も当地で営巣したが、いずれも大雨による増水で失敗に終わっている。今年も8月11日の午前集中豪雨があり、池の水位が上がり巣は水面下に没したが、雛は孵化後15日経っており今回は運よく水難を免れた。抱卵中でなかったのが幸運だった。松阪市におけるセイタカシギの繁殖を記録できたのは今回が初めて。鈴鹿市以南のセイタカシギ繁殖成功は非常に貴重な出来事であった。



写真はいずれも筆者撮影

今年のコアジサシ

岡 八智子 (津市)

昨年、2011 年はコアジサシ繁殖保護の取り組みが遅かったので今年は早く用意しました。2012 年 4 月末にデコイ 20 体が完成、5 月 1 日に雲出川河口の少し高い浜に設置しました。が、思わぬ低気圧の接近で豪雨、又 5 月の台風 4 号で沢山のゴミが打ち上げられ、せっかくのデコイも砂に埋まり、コアジサシ保護の看板も流され、悲しい出発になってしまいました。その後コアジサシ達の寄りつく様子も少しあったのですが、結局香良洲海岸の砂州に営巣しました。そこは絶対安全では無いのに・・・案の定次ぎの大潮で皆水没し、コアジサシ達も姿を消してしまいました。6 月 27 日に松阪・金剛川河口にハシブトアジサシの飛来の報に出かけた所、砂州の沖側にコアジサシが群れていました。次の日松名瀬漁港から浜づたいに歩いて観察しましたが、大潮に堪えられる場所では無いようでした。

もう今年はダメかと諦めていたら 7 月中旬安濃川河口にコアジサシ集結の報が入りました。集結場所に下りる堤防はゴミ不法投棄の為通行止めになっているのであまり人は入りませんが、それでも散歩や釣り人がやって来ます。コアジサシが一斉に飛び立った隙に近づいて急いで調査したら 11 巣・卵 17 個・ヒナ 1 羽がいました。急いでその場を離れました。保護の呼び掛けの立て札を有志の方が作って立てましたが、又次の大潮で一部が水没。外回りのゴミの中で抱卵していたのはどうもダメだったようです。その後は対岸からの観察でヒナを 5 羽確認しましたが、孵化の確率は本当に低いようです。その近くにウミガメも産卵したらしく、囲いを作って保護を呼び掛けていました。しかし、昨年雲出川河口での子育てと少し違って頻繁に餌を与える様子が見られません。一日中観察していないので分かりませんが浜にも餌があり自分で採っているのかも知れません。

ここ数年、三重県中部の海岸で、コアジサシの繁殖を見つめて来ましたが、自然には勝てない事が良く分かりました。津・松阪近辺の餌の豊富な浜を求めてやって来るコアジサシに安全な繁殖地を確保してやりたいと思うばかりです。



ハシブトアジサシ 2012. 6.26
今井光昌撮影



2012. 8. 7 ベニアジサシ 安濃川河口
田中洋子撮影

8 月中旬これが絶滅危惧種Ⅱ類?と疑う程の大群のコアジサシがやって来て浜を覆うばかりでした。数日後その大群が姿を消し 100 羽程繁殖に付き合っていた群れも次の日皆姿を消しました。あの 5 羽のヒナ達も無事飛び立ったら良いのですが、昨夕 (8 月 16 日) すっかり静かになった浜

をスコープで一生懸命探したら 1羽走るヒナの姿を一瞬見たような気がしました。巣立ちに間に合わず置いて行かれたのか??こんな悲しい現実を見るとは・・・。来年は如何したものかと考えさせられる年でした。

コアジサシに混じって先日はベニアジサシ、昨年はオオアジサシ、その前年にはオニアジサシがやって来ました。コアジサシだけでなく、様々なアジサシ類もやって来るこの三重の海は最高です。



2010. 9.24 オニアジサシ 香良洲海岸
今井光昌撮影



2011.10.18 オオアジサシ 安濃川河口 今井光昌撮影



五主干潟

しろちどり 73号 (2012)

魅力あふれる戸隠の探鳥

安藤 宣朗（四日市市）

ゴールデンウィークが過ぎ、森にやや静けさが戻るころ、曜日に関係の無い親しい友人と戸隠（戸隠森林植物園）へ探鳥に出掛けることが、ここ数年恒例となっている。新緑の若葉に映える中央自動車道を長野方面に向けてひたすら走り、信濃 IC（上信越自動車道）から戸隠へ入る。戸隠に到着するころには、すでに昼飯時を過ぎている。途中で昼食をとればいいのに敢えて取らない。おいしい戸隠そばが待っているからである。いつもの店で大盛りのざるそばを注文し、戸隠に来た事の実感をまず味わう。

独特な鋭く切り立った岩肌の戸隠連山には、まだ沢山の残雪が谷間を埋めている、森の駐車場も除雪した雪山が所どころに残っている時もある。



奥社 随神門



キビタキ

それもそのはず、この森の標高は1,220mあり、御在所岳の山頂（1,212 m）よりも高い！！この戸隠森林植物園は、71ヘクタールで、三重県民の森が45ヘクタールだから約1.5倍の広さがあり、カラマツ・モミ・ミズナラ・シラカバ・ハンノキなどの老木が茂っている。特に戸隠神社奥社山道の両側は、樹齢何百年もの高木が林立し、随神門をくぐると素晴らしい杉並木に圧倒される。森の所々に小川が流れ湿地が広がっている。カラマツのこみち・小川のこみち・小鳥のこみち・水芭蕉のこみちなど沢山の散策路が整理されており、湿地には木道が延々と続く。雪解けのこの時期は、まだ芽吹いていないので森の中は明るい。湿地一面に咲く純白の水芭蕉や金色のリウキンカは、実に清らかで神秘的であり癒してくれる。



ミソサザイ

初日は、森の下見とそば屋のおかみさんや行き交うバーダーさんからの情報収集から始まる。〇〇こみちのあの木にアカゲラが、〇〇の所の奥にクロツグミが、〇〇の付近にアカショウビンが・・・と親切に教えてくれるので誠にありがたい。近辺には、宿坊や旅館、民宿が沢山あるが、私たちの宿は、中社前にある安くて、美味しい料理に加えて気さくなおかみさんがいる民宿に泊まる。

翌日は、朝4時に起床、朝めし前の探鳥第1部が始まる。そんなに早く・・・？？なぜなぜと思われるでしょうが、戸隠ならではの森のコンサートが、夜明け前の薄暗

い森で始まるからである。いつも奥社山道入口から水芭蕉園に向けて散策する、先ず現れるのがアオジである、「チチョーチー・・・」とほんの手の届く小枝で平地では聞かれない囀りを、カラマツの高い所から「ピピチョ・キョロン・・・」と実にまるやかなクロツグミ、キビタキの「チョイチーピー・・・」、カラ類の「ツツピー・・・」「ツピ・ツピ・ツピン・・・」「ピー、ピー・・・」足元では、ミソサザイが顎が外れないかと心配するほど大きく口を開けてコンサートに参加する。森の上空をカッコウ・ホトトギス・ツツドリ・ジュウイチが横切る、遠くでフクロウの声、高い小枝で「ホイーチイチイ・・・」の魅力的なクロジの囀り、「ヒリヒリヒリ・・・」とサンショウクイ、カラマツ林からコルリが・・・やかましく鳴くニュウナイスズメ・・・など見事なオーケストラの演奏が続く。8時ごろまで鑑賞した後、民宿へ帰り朝食を取る。



アカショウビン

第2部は、9時半ころから始まる。探鳥ポイントは、沢山あるが2, 3紹介しておこう。第1のポイントは、「小川のみち」湿地を流れる小川の縁に複数のミソサザイの巣が有る。頻りに木道の杭に出てきて目一杯囀る。カラマツ林で囀るコルリが湿地によく降りてきて、食事をするのでシャッターチャンスが多い、アカゲラ・コサメビタキ・カワラヒワなどの子育てもよく見られる、キビタキやゴジュウカラも多い。第

2のポイントは、「水芭蕉のみち」ここは、開けた明るい湿地が広がり水芭蕉が美しい、東屋で休憩しながら待てばクロツグミ・マミジロ・キバシリ・アカハラ・クロジなどに出会える。



クロツグミ

第3のポイントは、「みどりが池」周辺でノジコ・キビタキ・アカゲラ・アカハラ・ミソサザイ・キクイタダキなどが見られる、ある年には、サンコウチョウもいた。お昼には、森の入口にある、いつものおそば屋さんで「ざるそば」を食べながら、おかみさんへ午前中の成果を報告する。



戸隠牧場

第3部は、午前中と異なり各自自由行動とし、今までの情報を参考にお目当ての鳥・場所へと分散する。囀りの録音録画やオオアカゲラ・サンショウクイなどの子育て観察・写真撮影などで各自存分に楽しんで、5時頃宿へ戻る。ギョウジャニンニクやコゴミなどの珍しい山菜料理と地酒に舌

ずつみを打った後、恒例の成果発表会をする。今日収録・撮影した画像をテレビに写しながら自慢話を交えた解説が始まる、これが結構楽しい。遠くで鳴くフクロウの声を聞きながら本日を終える。

3日目も前日と同様、早朝 4 時起きで森のコンサートへ出かける。ここの素晴らしいソングシャワーは何度聞いても絶品・絶品！！小鳥の囀りは複雑で聞きなれないと種の判別が難しい。それでも何度か聞くことで、それなりに分かってくるので、とても楽しい。午前中は、森周辺にある鏡池

や戸隠牧場へ遠征し静かな高原でおいしいコーヒータ임을過ごし帰途に着くのである。

その年々により観察される種数に違いはあるが 40～50 種位の鳥たちと出会える。5 月下旬に行けばアカショウビンも期待できる。また日程に余裕があれば、鬼無里の奥裾花自然園や妙高笹ヶ峰ダム・牧場周辺への散策も魅力的である。

=====

「ヒナを拾わないで」を 広めてください！！

西村 泉（玉城町）

毎年春から夏にかけて、事務局には野鳥についての相談の連絡が増えます。その大半が、ツバメのヒナに関する問い合わせです。公益財団法人日本野鳥の会では、毎年「ヒナを拾わないで」のポスターを作成・配布し、会員さんには「ヒナを拾わない」ことが浸透していると思いますが、世間一般にはまだまだのようです。また一方で、ツバメは人の生活に近いところで子育てをするので、人々の関心が高くツバメへの優しさに心温まることもあります。今年相談を受けた事例をご紹介します。



ツバメ

相談 1：ヒナが暑そうで、やせ細っている。かわいそうなので、なんとかならないか？毎日通る道沿いにツバメの巣がありヒナがいるが、暑そうでぐったりしている。あまりエサももらってないようで痩せている。どうしたらいいか？

回答：

親鳥が、その場所を好んで巣をかけ子育てしている。手を入れるべきではないこととお話しました。

相談 2：塾の玄関前にあった巣が壊れて巣立ちに近いヒナが下に落ちていた。子どもが家へ持ち帰り、すり餌で育てている。家の近くにツバメのねぐらがあれば、そこに放したいが、どこにあるのか？また放鳥プログラムはあるのか？

回答：

巣が壊れただけで親鳥は近くにいるはず。巣を補修しヒナを戻してとお願いした。またツバメは昆虫食で、すり餌だけでは育たないことも伝えた。

相談 3：毎年うちにツバメがきて子育てしている。オスがヘビにやられ、メスだけでヒナに餌を運んでいる。ところが、新しいオスがきてメスを追いかけてまわし、餌が運ばないでいる。どうしたらいいか？

回答：

巣立ちが近いヒナであれば、メスだけで育てられるかもしれない。しかし新

しいオスは自分のヒナではないので、巣から落としてしまうおそれがある。しばらく様子を見守ってとお願いした。

原則として、野鳥の子育てに手を出すべきではないが、その後、状況は変わらないため、家主さんに補助的にヒナへの給餌をしてもらった。幸い巣は手の届く場所にあり、ヒナを巣からおろさず、様子を見ながらミルワームとビタミン剤を与えた。後日、ヒナ6羽のうち、3羽が無事育ったとの連絡を受けた。

を確認して巣を撤去。また新たに巣をつくり産卵していたら、やむを得ないが巣ごと取り外し、それごと容器に入れ、もとの巣に近い場所で、雨が当たらずカラスや猫に狙われにくいところに取り付けて移動させてとお願いした。



髯山

相談4：1ヶ月後に解体を予定している建物にツバメの巣があり、ヒナがいる。どうしたらいいか？

回答：

解体は1ヶ月後なので、おそらく巣立っているはず。ツバメは繰り返し営巣するので巣立った後、空になったこと

=====

事務局だより 活動記録（2012年6月～8月）

6/10 中部ブロック会議準備会

6/21 県委託「平成23年度防災ダム事業（地震対策）環境調査委託」完成検査

7/ 会報「しろちどり第71号・第72号」発行・発送作業

7/25 中部ブロック会議準備会

8/2 「度会町・南伊勢町風力発電事業計画」の（株）荒谷建設コンサルタントと面談

8/5 第1回理事会

●今後の予定

9 会報「しろちどり第73号」発行

理事会報告

第1回（2012年8月5日）津市雲出市民センター 出席者12名

○中部ブロック会議について

平成25年度中部ブロック会議は本会が担当、三重県での開催になる。

開催日時：2013・9・7～8 会場：プラザ洞津（津市）

実行委員会：服部 実行委員長 会の進行：議長 近藤

本会会員への周知・スタッフ募集のため「しろちどり」に掲載

講演会：山崎氏：第一日 15：00 ごろから講演会 夕食後＝三重県の野鳥の紹介
多田氏（岡山在住）＝チュウヒの話、（山崎氏不可能の場合）

会計：独立会計 支部でも負担可 スタッフはホテル宿泊

○三重県版レッドデータブック改訂

本会に委託される予定。(野外調査、野外調査記録 文献調査)

2012年度から2013年にかけてRDB見直し作業。2005年に初版、5年ごとに見直すことになっていた。見直し結果を薄い冊子にまとめる。

○「度会町・南伊勢町風力発電計画」問題

(株) 荒谷建設コンサルタントと面談。来年、環境影響評価準備書を出す予定。
経済産業省がアセスメントを行う。

○木曾岬干拓地問題

県はメガソーラーの企業を募集。

声明を出すべきか 木曾岬に建設するのは環境破壊である。

昨年繁殖に失敗、今年も幼鳥がいるが繁殖はしていない。周辺で繁殖しただろう。

アセスは終わっている。

○海岸保護

五主海岸一帯がラムサール条約指定湿地となるよう、津市、松阪市、漁協へ働きかけここにしかないという説得力のあるデータ(種類)がほしい

コアジサシ保護：コアジサシは数年に一度成功すれば個体群を維持できる、現在でもどこかで集団繁殖している＝自然のままの方がよいのでは？目の前にいるから守ろうというのはいかがでしょうか？

○「しろちどり」発行73号

表紙絵；石原

中部ブロックサポートメンバーの募集

○野鳥記録

新方式になった。

ミサゴ



	取扱商品
	フィールドスコープ 双眼鏡(小型・大型) 天体望遠鏡 カメラ(新品・中古) その他光学製品各種
	取扱メーカー
	KOWA・NIKON・FUJINON MIYAUCHI・VIXEN・PENTAX他
中部地区最大の光学製品専門店	
TELESCOPE CENTER EYEBELL	
テレスコープセンターアイベル (株式会社アイベル)	
〒514-0801 津市船頭町3412(メガネのマスター2F) TEL 059-228-4119	
定休日/毎週水曜日 営業時間/10:00~19:00	
ホームページ http://www.eyebell.com メールアドレス eyebell@diamond.broba.cc	

第21回中部ブロック会議は三重で開催！

～～～スタッフ募集中です～～～

※ 中部ブロック会議とは？

(財)日本野鳥の会は、本部と支部及び支部間の情報共有・交換、会員相互の交流・親睦を図るため、全国の日本野鳥の会(支部)を7つのブロックに分けてブロック会議を設置。そのうち、中部地方(新潟・長野・山梨・静岡・富山・岐阜・愛知・石川・福井・三重)の10県にある21の野鳥の会(支部)で構成するのが「日本野鳥の会中部ブロック会議」(略して「中部ブロック会議」)

会議は年1回支部持ち回りで開催し、例年、本部からの出席者を含め参加者は50名前後

ちなみに、第20回は2012年6月に富士山麓支部(山梨県)で開催され、三重からは、代表以下2名が出席

※ 第21回会議はいつ？どこで？

2013年(平成25年)9月7日(土)～8日(日) 近鉄津新町駅近くの「プラザ洞津(どうしん)」

なお、8日には五主海岸(松阪市)や安濃川河口での探鳥会も開催予定

※ スタッフって？

事前準備から会議や探鳥会の運営まで、ボランティアとしてお手伝いして下さる方

(宿泊も含め2日間通して手伝ってくださるとありがたいですが、1日または数時間のみでも歓迎です。)

※ 応募するには？

日本野鳥の会三重事務局(西村 泉)まで電話かメールで申し込んで下さい。

(電話：090-1566-6010 メール：izu-n@theia.ocn.ne.jp)

手伝っていただける日と時間帯を明記して下さい。

募集期限は一応2012年(平成24年)11月20日とします。

ブロック会議の夜には懇親会があり、他の支部や本部から参加する会員と歓談する貴重な機会ともなります。一緒に楽しみませんか？応募をお待ちしています。



多度山

野鳥記録 (2012年8月20日までに報告があったもの)

野鳥の種類名	個体数	観察日(2012年)	観察場所	記録報告者	雄/雌など区別	写真有無	脚注
アカガシラサギ	1	05月08日05時頃	三重県熊野市有馬町水田	中井 節二	-	無	1
サンコウチョウ	1	05月27日12時頃	度会町林道麻加江小萩線 注連指付近	小坂 里香	-	無	2
ホトトギス	1	05月30日06時頃	四日市市西坂部町 海蔵川堤防上	安藤 宣朗	雄/成鳥	無	3
イソヒヨドリ	1	06月02日23時頃	度会郡度会町棚橋	小坂 里香	幼鳥	有	4
ホトトギス	1	06月05日08時頃	度会郡度会町棚橋 自宅周辺	小坂 里香	雄	無	5
ハシブトアジサシ	2	06月24日13時頃	四日市市楠町 鈴鹿川派川河口	横山 真一	成鳥	有	6
コグンカンドリ	5	06月24日16時頃	三重県御浜町～熊野市 七里御浜海岸	中井 節二	幼鳥	有	7
ハシブトアジサシ	4	06月26日10時頃	松阪市 金剛川河口	今井 光昌	成鳥	有	8
セイタカシギの繁殖	6	07月25日16時頃	三重県松阪市首原新田大池	今井 光昌	成鳥雌雄と 雛4羽	有	9
コムクドリ	3	08月06日17時頃	三重県熊野市久生屋町	中井 節二	雄2羽雌1羽	有	10
ベニアジサシ	2	08月07日11時頃	津市安濃川河口	田中 洋子	成鳥	有	11
アメリカウズラシギ	1	08月09日17時頃	三重県津市 (旧久居市休耕田)	今井 光昌	成鳥	有	12
ハリオシギ	1	08月11日17時頃	松阪市 (旧三雲町) 休耕田	今井 光昌	成鳥	有	13

- 1: 夏羽で今まで、3回くらい観察しましたが、1番綺麗な個体でした。終認日：5月10日
- 2: 注連指側から上って2kmくらいの地点
- 3: 渡りの初認
- 4: 自宅換気扇に深夜ねぐらを求めて入り込んだ巣立ちヒナです。捕獲して直後（夜間）に放鳥。
- 5: 鳴き声のみ。今期滞在の初認とおもわれる。毎年来ます。
- 6: 後に金剛川で観察されたうちの2羽と見られるが、確証はない。
- 7: 6月24日は、2羽 6月27日5羽 7月8日2羽終認日 最後は熊野市有馬町～木本町の海岸か沖で飛んでいた。
- 8: 6月24日に1羽確認されており6月26日3羽が合流し4羽になる。同時期に愛知県でも1羽見られており、5個体が伊勢湾内に飛来した。夏羽から冬羽に換羽中の成鳥の混群と判断する、終認日：7月3日
- 9: 2012.07.02に抱卵を始める。7月25日に2個、26日に3個目、27日に4個目が孵化する。8月18日現在、親子とも健在。
- 10: 渡りの初認
- 11: コアジサシ約800羽と一緒にいた。
- 12: 滞在期間ははっきりしない。初認日以降、行方をつかめず、8月15日、16日にに再度出会いがあるもその後は見つけられず。アメリカウズラシギ成鳥が飛来するのは稀。
- 13: 頭の割に胴体そのものが小さく、体後部（尾筒部分）が短い、寸詰り体型から同定。



ハシブトアジサシ 撮影：横山真一



コグンカンドリ 撮影：中井節二

野鳥情報（前ページより続き）



アメリカウズラシギ 撮影：今井光昌



ハリオシギ 撮影：今井光昌

なお、ベニアジサシの写真は本号3ページに掲載してあります。

=====

探鳥会報告（2012年5月～7月）

● 金剛川河口探鳥会

2012年5月11日（金）9:00～11:30

松阪市高須町 金剛川河口

中村洋子 宮川たつ 参加者11名（会員11名）

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、トビ、シロチドリ、ダイゼン、トウネン、ハマシギ、アオアシシギ、キアシシ

ギ、ソリハシシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、ツバメ、オオヨシキリ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ドバト 計26種

上空をヘリコプターが飛ぶと、キアシシギ、ソリハシシギ達は大群になって飛び、ハマシギかと間違えそうだった。最後にはホウロクシギ、チュウシャクシギが近くに來たので、くちばしの長さ、身体の大きさ等をじっくり比較して見る事が出来ました。

しろちどり 73号 (2012)

● 朝明源流探鳥会

2012年5月12日(土) 9:00～14:00

三重郡菰野町 朝明溪谷

辻 秀之 参加者7名(会員5名)

カワウ、キジバト、アカゲラ、コゲラ、キセキレイ、ヒヨドリ、ミソサザイ、ウグイス、キビタキ、オオルリ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計16種

朝明溪谷をたどり、ブナ清水と呼ばれる源流部をめざした。大気が不安定で風が強かった。ブナ清水は新聞記事になってから登山者がすっかり増え秘境のイメージではなくなったが、オオルリやミソサザイのさえずりを道連れに歩く楽しみは変わらない。シカの食害でササがなくなり常連だったコルリが見えなくなったのはさびしい。

● 三重県民の森 初夏の探鳥会

2012年5月13日(日) 9:30～12:00

三重郡菰野町 三重県民の森 共催団体
／三重県民の森

市川雄二 尾畑玲子 参加者28名(会員4名)

トビ、オオタカ、キジバト、アマツバメ、コゲラ、サンショウクイ、ヒヨドリ、ウグイス、キビタキ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ、イカル、ハシブトガラス、コジュケイ 計16種

天候に恵まれ新緑の美しい探鳥会でした。参加者の殆どが初めてで、親子連れの

方も来てもらいました。初心者向けの探鳥会となりました。展示館の野鳥の剥製や写真で予備知識を得ました。トビやオオタカが出現したり、複雑な美しいさえずりのキビタキに出会ったりすることができました。下見時に聞こえたツツドリの声を聞いてもらえなくて残念でした。

● 関・観音山探鳥会

2012年5月13日(日) 10:00～12:00

亀山市関町 観音山

服部公子 岡 八智子 参加者7名(会員7名)

カルガモ、キジバト、コゲラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、キビタキ、オオルリ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ドバト 計13種

バードウォーク中の日曜日で、(財)日本野鳥の会が全国一斉探鳥会と位置づけた日。三重でも3件の探鳥会が同時に開催された。そのこともあってか、絶好の探鳥会日和であったが、参加者は7人と少なめ。

新緑の中を和気藹々と会話も進む。あちこちで鳥の音がするが、姿を見ることは難しい。すぐそばの樹でキビタキの音がして、全員が位置を変えたり覗き込んだりして目をこらしたが、繁った若葉が鳥を隠して見つけれず残念!

鳥種は少なかったものの、道ばたや遠くの山の植物も観察して、楽しい探鳥会となった。



雨乞岳

● 上野森林公園探鳥会

2012年5月13日(日) 9:30～11:30
伊賀市 上野森林公園 共催団体/上野森林公園・三重県環境学習情報センター
前澤昭彦 沢村保廣 参加者24名(会員2名)

カイツブリ、カワウ、アオサギ、キンクロハジロ、トビ、キジ、キジバト、コゲラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、ホオジロ、カワラヒワ、ハシボソガラス、コジュケイ、ドバト 計19種

3団体共催の探鳥会で参加者も多かった。情報発信が大切だと思った。

繁殖期にしては鳥が少ない。昨年と同じ傾向が続いているのかも知れない。

参加者はほとんど初心者だったので、ホオジロをゆっくりと観察できてよかった。

● 海蔵川探鳥会

(2012年5月15日開催予定でしたが、雨のため中止しました。)

● 木曾岬干拓地探鳥会

2012年5月27日(日) 9:00～12:00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地
共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会
森井豊久 加藤雅也 参加者17名(会員12名)

カワウ(150)、ゴイサギ(1)、ダイサギ(10)、チュウサギ(1)、コサギ(1)、アオサギ(5)、カルガモ(20)、コガモ(1)、ミサゴ(2)、チュウヒ(3)、キジ(4)、コチドリ(5)、ケリ(10)、クサシギ(1)、キアシシギ(1)、コアジサシ(4)、キジバト(10)、カワセミ(2)、ヒバリ(20)、ツバメ(15)、ハクセキレイ(1)、ヒヨドリ(3)、ウグイス(5)、オオヨシキリ(5)、セッカ(20)、シジュウカラ(1)、ホオジロ(2)、カワラヒワ(2)、スズメ(30)、ムクドリ(10)、ハシボソガラス(50)、ハシブトガラス(20)、ドバト(5) 計33種

日差しが照りつけ、暑い時期となってきた。

木曾岬干拓地ではチュウヒが3羽観察できた。

● 赤目滝探鳥会

2012年6月3日(日) 8:30～12:00
名張市 赤目滝
共催団体/赤目四十八滝溪谷保勝会
田中豊成 小林達也 参加者21名(会員11名)

トビ、クマタカ、アオゲラ、コゲラ、ツバメ、ヒヨドリ、ミソサザイ、オオルリ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、イカル、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計15種

下見のときに、オオルリが営巣しているのを見つけた。雌雄親がエサを運び巣も間近でした。残念ながら、開催日の前日(6月2日)の朝に巣立ちをしたので、ヒナ等は観察できなかった。橋の下で巣立ち後のミソサザイの巣を案内しました。探鳥会の最初と最後に上空をクマタカが飛翔し、カラス1羽がちょっかいを出したので、クマタカとの大きさの比較ができました。クマタカはデカかった。

● 安濃ダム探鳥会

2012年6月10日(日) 9:30～11:30
津市芸濃町 安濃ダム周辺
落合 修 岡 八智子 参加者18名(会員16名)

カワウ、オオタカ、サシバ、クマタカ、キジバト、アオゲラ、キセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、カケス、ハシボソガラス 計15種

鳥は少なく、聞こえてくるのは鳥ではなくカエルの声でした。それでも、何とか15種類の野鳥を観察することができました。広場ではクマタカが出現し、参加者全員に喜んでもらえたようです。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2012年6月24日(日) 9:00～12:00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地
共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤義孝 米倉 静 参加者17名(会員6名)

カワウ(50)、ダイサギ(7)、チュウサギ(1)、アオサギ(3)、カルガモ(30)、チュウヒ(2)、

キジ(7)、コチドリ(6)、ケリ(20)、クサシギ(1)、イソシギ(1)、コアジサシ(7)、キジバト(5)、ヒバリ(15)、ツバメ(80)、ハクセキレイ(4)、セグロセキレイ(4)、ヒヨドリ(2)、モズ(7)、ウグイス(2)、オオヨシキリ(2)、セッカ(15)、シジュウカラ(1)、ホオジロ(3)、カワラヒワ(10)、スズメ(20)、ムクドリ(60)、ハシボソガラス(20)、ハシブトガラス(20)、ドバト(28) 計30種

雨でもなく暑い日差しが降り注ぐでもない、この時期としては恵まれた曇りでした。猛禽類はチュウヒだけで、普段見なれた鳥がほとんどでした。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2012年7月22日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地
共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤義孝 米倉 静 参加者13名(会員5名)

カイツブリ(1)、カワウ(35)、ダイサギ(10)、チュウサギ(1)、コサギ(2)、アオサギ(9)、カルガモ(20)、ミサゴ(1)、チュウヒ(2)、キジ(4)、コチドリ(1)、ケリ(14)、クサシギ(3)、イソシギ(3)、キジバト(6)、ヒバリ(8)、ツバメ(200)、ハクセキレイ(4)、セグロセキレイ(2)、ヒヨドリ(2)、ウグイス(1)、セッカ(20)、ホオジロ(1)、カワラヒワ(6)、スズメ(100)、ムクドリ(50)、ハシボソガラス(10)、ハシブトガラス(30)、ドバト(3) 計29種

7月とは思えないほどの涼しい日で、ゆっくりと観察できた。メガソーラーが計画されている木曾岬干拓地では、今回もチュウヒが観察できた。



ショウドウツバメ

しろちどり 73号 (2012)

編集後記

日本の多くの場所で、海岸が埋め立てられ、工場用地になり、自然の砂浜がなくなっている。近年はわざわざ他の場所から砂を持ってきて、砂浜と称している所すらある。三重県の津、松阪の海岸では自然の砂浜が多く残され、所々に干潟がある。都市の近郊では珍しい。シギ・チドリ、カモメ類をはじめ、多数の渡り鳥が飛来し、海浜植生が豊富で、アカウミガメも稀にはあるが産卵に上陸する。場所によってはアサリなどの貝類も採れる。今回は新たにセイタカシギの繁殖が成功した。

しかし、この海岸の良さは地元の人たちに十分伝わっていないようだ。海岸を散歩する人はそれほど多くない。そこに飛来する鳥や生育する植物に関心を持つ人はさらに少ない。ラムサール条約に登録するに値するとされていながら。その良さを伝えるのも我々の役割かもしれない。

今回は手際よく編集することができた。原稿はほぼ期日までに集まり、ワープロの操作にも慣れた。レイアウトなどまだかなり不満は残るが、会員相互の意思疎通、情報交換の場になればよいと思う。できれば年6回は発行したい。(M. H.)

しろちどり 73号

2012年9月15日発行

題字：濱田 稔

表紙絵：石原 宏

編集：近藤義孝

511-0123 桑名市多度町北猪飼 521

発行所：日本野鳥の会三重

平井正志方

514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

印刷：伊藤印刷株式会社

514-0027 三重県津市大門 32-13